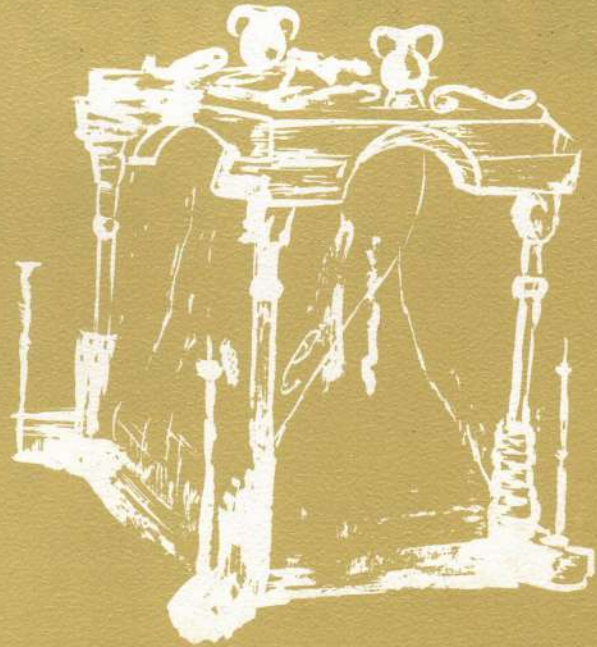


昭和60年度茨城県芸術祭参加 茨城オペラ第11回公演

オ ペ ラ

途道女アンジェリカ ジャンニ・スキッキ

■ プッチーニ作曲



茨城オペラ研究会

昭和60年度茨城県芸術祭参加

茨城オペラ第11回公演

ジャコモ・プッチーニ作曲

G・フォルツァーノ台本

オペラ

送道女アンジェリカ

ジャンニ・スキッキ

各1幕

昭和60年10月27日(日)午後2時

茨城県民文化センター

主催／茨城県教育委員会，茨城県，茨城文化団体連合，茨城県文化福祉事業団，茨城県教育財団，
茨城新聞社，勝田市，勝田市教育委員会，茨城オペラ研究会
後援／茨城県市長会，茨城県町村会，茨城県商工経済会，茨城県市町村教育委員会連合会，茨城放
送，日本放送協会水戸放送局，朝日・毎日・読売・サンケイ・東京各新聞社水戸支局，常陽
新聞社，新いばらきタイムス社，全日本地方オペラ協議会

●スタッフ

☒指	揮	福 森 湘
☒演	出	栗 国 安 彦
☒舞 台 監 督		加 藤 三 季 男
☒舞 台 美 術		堀 尾 幸 男
☒舞 台 装 置		菊 池 弘 道
☒美 術		鹿 志 村 豊
☒照 明		室 伏 生 大
☒衣 装		八 重 田 喜 美 子
☒メイ ク ア ッ プ		白 川 と き (ひかり美容室)
☒演 出 助 手		八 木 正 承
☒副 指 揮		坂 本 和 彦
		牧 野 英 一 子
☒合 唱 指 導		中 沢 敏 子
☒ピ ア ノ		呉 恵 珠 子
		後 藤 明 子
		江 幡 和 子
		大 谷 満 子
		打 木 弘 美
☒事 務 局		益 子 州 出 男
製 作		白 川 昭 平

●キャスト

■修道女アンジェリカ Suor Angelica

アンジェリカ	菊池典子
公爵夫人 (アンジェリカの伯母)	丹下博子
修道院長	篠田喜代美
修道女	生天目美知子

修 練 長	所 文 子
修道女ジェノヴィエツファ	小松崎 恭子
修道女オスミーナ	杉 田 攝 子
修道女ドルチーナ	貝 塚 智 子
看護係修道女	沼 田 敞 子
托 鉢 修 道 女	照 沼 美 和 子
//	菊 池 香 津 子
修 練 女	小 池 芳 江
助 修 女	正 田 美 奈 子
//	浜 野 美 樹
アンジェリカの子	佐 藤 千 賀 子
合 唱	野 ば ら 会 合 唱 団

■ジャンニ・スキッキ Gianni Schiechi

ジャンニ・スキッキ	竹 中 治 利
ラウレッタ (スキッキの娘)	売 賀 和 恵
ツイータ	海 野 美 智 子
リヌッチオ (ツイータの甥)	長 谷 川 敏
ゲラルド (フォーソの甥)	郡 司 忠 良
ネッラ (ゲラルドの妻)	手 塚 久 美 子
ベット (フォーソの義兄)	内 山 太 一
シモーネ (フォーソの従弟)	山 田 祥 雄
マルコ (シモーネの息子)	堀 部 一 寿
チェスカ (マルコの妻)	村 沢 徳 子
スピネル・ロッチオ (医者)	片 野 克 一
アマンティオ (公証人)	同 上
ピネルリーノ (靴屋)	青 木 孝 雄
グッチオ (染物屋)	皆 川 純 一
ゲラルディーノ (ゲラルドの息子)	伊 丹 宏 美
ブオーゾ	白 川 昭 平

キャスト・プロフィール

修道女アンジェリカ



アンジェリカ

菊池典子

武蔵野音大卒。末松峯子、鈴木義弘、日比啓子、H・リヒラートの各氏に師事。'80~'81に西独留学後、ソプラノとしてデビュー。東京・茨城にてオペラ、コンサートシンガーとして演奏活動中。藤原歌劇団準団員。



修練長

所 文子

昭和60年洗足学園大学音楽教育科卒業。声楽を岡崎實俊氏に師事。現在、個人でピアノを指導。茨城オペラ初出演、今後に期待される。



公爵夫人(アンジェリカの伯母)

丹下博子

茨大音楽科卒。コンサート、オペラ、第九のソロ等幅広い活動を行っている。茨城オペラに第1回より参加、「あまんじゃく」「ゴージュ」「ヘンゼルとグレーテル」「うかれの兵六」等出演。歌唱力、演技力共に定評あり、傍役の重鎮として貴重な存在である。



修道女ジェノヴィエフア

小松崎 恭子

東京音楽大学卒業。現在、同大学研究科に在籍。昭和58年北京人民大会堂で歌う。昭和59年茨城県芸術祭県民コンサート出演。その他多くのコンサートに出演。日本オペラ振興会(藤原歌劇団)研究生。国際音楽学校講師。



修道院長

篠田喜代美

国立音楽大学声楽科卒業。内田るり子鈴木てい子に師事。水戸市音楽祭、茨城県芸術祭「県民コンサート」等の演奏会や「魔笛」等のオペラに出演。現在、七会中学校教諭。



修道女オスミーナ

杉田 攝子

東京都出身。現在専業主婦。混声合唱団「コール水戸」在団中。



修女長

生天目美知子

武蔵野音楽大学音楽部声楽科卒業。昭和58年、同60年水戸市音楽祭、文化団体連合音楽祭、県民コンサート一部等の演奏会、茨城オペラでは第9回「魔笛」でデビュー好評を得る。



修道女ドルチーナ

貝塚 智子

茨城大音楽科卒。藤原歌劇団研究生第4期卒。茨城オペラ第7回「蝶々夫人」で<スズキ>第8回「あまんじゃくとうりこ姫」で<あまんじゃく>を演じ好評を得た。大藤裕子、森靖博氏に師事。牛久町在住、ピアノ講師。

修道女アンジェリカ



看護係修道女

沼田 敬子

茨大教育学部音楽科卒。茨城オペラでは第6回「うかれの兵六機織唄」第7回「バタフライ」第8回「赤い陣羽織」と好演。その地味な役柄には定評がある。他方地元コーラス等の指導に当たっている。



助修女

足田 美奈子

茨城音楽専門学校卒業。手塚久美子氏に師事。茨城オペラでは第9回「魔笛」に出演。常陸太田市在住。ピアノ講師。



托鉢修道女

照沼 美和子

昭和59年東京音楽大学音楽学部オペラ科卒業。芹沢文子、栗林義信、中沢桂、市川倫子の各氏に師事。同年東京音楽大学研究科オペラコースに入学。現在同大学研究科2年在学中。第10回「夕鶴」に機織り役で出演。



助修女

浜野 美樹

昭和60年国立音楽大学教育音楽科第1類専攻卒業。森靖博、野崎靖智の各氏に師事。同年3月、国立音楽大学同調会主催による「新人演奏会」に出演。現在、自宅と音楽教室にてピアノ教師。



托鉢修道女

菊池 香津子

昭和57年武蔵野音楽大学短期大学声楽科卒業。岡崎雅明、郡司忠良の各氏に師事。現在音楽教室講師。今回オペラに初出演。



修練女

小池 芳江

昭和57年武蔵野音大短期大学部卒業。中沢敏子、黒川和子の両氏に師事。第6回第7回の「日本の歌声演奏会」出演。「野ばら会」所属。現在音楽教室講師。

アンジェリカの子

佐藤 千賀子(4歳)



野ばら会 昭和38年、中沢敏子氏を中心に、本県出身の声楽家による研究団体として発足。特に日本語の発音、詩想の解釈等、いわゆる「やまと言葉」の音楽的発見に独自の分野を開拓しつつある。一方県民コンサート、茨城オペラ、二期会等への意欲的で参加活動でも知られ、会員個々の歌唱力はつとに定評がある。

ジャンニ・スキッキ



ジャンニ・スキッキ

竹中 治利

武蔵野音楽大学卒業。ローマ・サンタチエチリア音楽院修了。昭和38年「魔笛」のパパゲーノでデビュー、以来多数のオペラ、オラトリオに出演、茨オペには、「浮かれのひょうろく」以来の久し振りの出演。二期会会員。



ラウレッタ (スキッキの娘)

売賀 和恵

国立音大卒。故古田美代子、久岡昇代に師事。茨城オペラ第5回ヘンゼルとグレーテルでデビュー。以来プリマとして活躍、第7回「蝶々夫人」では蝶々夫人を演じる。「赤い陣羽織」でくおかか役を演じその芸域を広げ、進境著しい。



ツイータ

海野 美智子

洗足学園大学声楽科卒。ウィリアム・ウー声楽研究所研究員として、国内、台湾で演奏活動をし、研鑽を積んでいる。今年3月、日立市で行なわれたコンサートが縁で、今回の茨城オペラ公演に初参加。



リヌッチオ

長谷川 敏

東京芸術大卒。同大学院修了。ウィーン国立音大卒、芸大メサイアを始め第九修禅寺物語、セビリアの理髪師、夕鶴等に出演。ウィーンのオーケストラとも協演、茨大助教授、お茶の水女子大講師、洗足学園大講師、二期会会員



ゲラルド

郡司 忠良

武蔵野音大卒。日伊コンクール、毎日音楽コンクール、民音コンクール、ヴェルディコンクール等国内外のコンクールに入賞、オペラには、「椿姫」「外套」「マノン」の肖像」等に出演多彩な演奏活動を行っている。二期会会員。



ネッラ (ゲラルドの妻)

手塚 久美子

洗足学園大学声楽科卒。尚美学園ディプロマコース卒。大里洋子、西義一、鈴木義弘氏等に師事。茨城オペラ、第7回「蝶々夫人」にてデビュー。第8回「あまんじゃくとうりこ姫」に出演。第9回、「魔笛」パミーナで好演。



ベット (フォーゾの義兄)

内山 太一

武蔵野音大、ミュンヘン国立音大卒。シューベルト等ドイツ歌曲のリサイタルを8回行う、オペラでは、コシファントッテ、フィガロの結婚、蝶々夫人、カルメン等々、その他宗教曲、第9等多数のコンサートにソリストとして出演、武蔵野音大講師。



シモーネ (フォーゾの従弟)

山田 祥雄

国立音楽大学大学院を修了。オペラ研修所で二年間の研修をへて、'83-'84まで文化庁芸術家在外研修員としてミラノに派遣される。声はバツソカンタービレで、オペラセリアからブッフアまで守備範囲は広い。

ジャンニ・スキッキ



マルコ (シモーネの息子)

堀部 一 寿

尚美高等音楽学院教育科、同研究科卒。西義一氏に師事。今年8月、土浦にて初のリサイタルを行なう。オペラでは、茨城オペラ「魔笛」のザラストロ役。他にもフィガロ、パパゲーノ、ドン・アルフォンソ役も持ち役としている。



グッチオ (染物屋)

皆川 純 一

早稲田大学卒。学生時代よりコーラス部で精進、茨城オペラに第1回よりコーラスで参加、近年キャラクターが認められソロとして出演、第7回「蝶々夫人」では〈ボンソ〉第8・9回では傍役としてその真価を発揮している。



チェスカ (マルコの妻)

村澤 徳 子

上野学園大学音楽学部声楽学科卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第三期研究生修了。清水末子、岡崎雅明、郡司忠良の諸氏に師事。藤原歌劇団新人演奏会、dolce 演奏会III-Ma会演奏会等出演。藤原歌劇団準団員。



ゲラルディーノ (ゲラルドの息子)

伊丹 宏 美

勝田、東石川小6年。茨城オペラ第10回記念公演「夕鶴」でオペラ初出演、今年で2年連続出演。



スピネル・ロッチオ/アマンティオ
片野 克 一

柳橋久、ワルター・ダイレ氏に師事。NHKコンクール関東甲信越第2位、茨城オペラには第1回より出演。テノールの恵まれた豊かな声量と天性の演技力とは他の追随を許さない。夕鶴の〈与ひょう〉は今も語り草として残っている。



ヴォーゾ

白川 昭 平

研究会創設以来会長をつとめ、郷土の音楽文化の向上に奮闘している。勝田市在住、白川工務店社長。



ピネルリーノ (靴屋)

青木 孝 雄

茨大卒。茨城オペラの第1回公演より唯一人の連続出演者、県内では貴重なバリトンのキャラクターとしても常に欠く事の出来ない主要な存在。水戸市在住、建設会社勤務。

スタッフ・プロフィール



舞台装置

菊池 弘 道

第1回「真間の手古奈」、第2回「ゼロ弾きのゴーシュ」、第3回「小さな煙突そうじやさん」、第6回「浮かれの兵六機織唄」、第8回「赤い陣羽織」、第9回「魔笛」の舞台装置を担当。



美術

鹿志村 豊

茨城オペラ第1回公演以来の美術担当者。宣材文案に示す斬新な感覚はつねに定評がある。東海村在任。



メイクアップ (ひかり美容室)

白川 と き

全国婚礼協会会員、全日本美容講師会員、日本毛髪科学協会公認講師、日本美容医学研究会員、日本STシャン協会員。茨城オペラ創立以来、各公演の美粧を担当。ひかり美容院経営、会長夫人。

演出助手

八木 正 承

武蔵野音楽大学声楽科卒業。在学中より藤原歌劇団、二期会などのオペラに合唱団員として数多く出演した他、「ジャンニ・スキッキ」のジャンニ、「コシ・ファン・トウッテ」のアルフォンゾなど演じている。また近年はオペラの演出も手がけ「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トウッテ」、「魔笛」、「奥様女中」などの演出をした他、栗国安彦氏演出の「ジャンニ・スキッキ」、「テイドとエネアス」、「蝶々夫人」などの演出助手を担当している。現在、武蔵野音楽大学演奏部主任。



副指揮

坂本 和 彦

東京音楽大学指揮科卒業。在学中より4年にわたり、チューリッヒへ留学。コンヤルヴマトクール・チマーリッヒ歌劇場にて、研究をつむ。帰国後オペラ振興会を中心に活動。尚美短大オペラ科・指揮科講師。東京声専オペラ科講師、日本指揮者協会会員、日本オペラ協会指揮者会員。

副指揮

牧野 英 一

茨城大学音楽科卒。白井英男、東学、梶原征剛各氏に師事。フルートを故林リリ子、峰壯一代に師事。茨大プラス、茨響、バロック等で指揮、又首席奏者を務める。茨城オペラには第6回公演より参加。自ら「茨城笛の会」を主宰している。日立一高勤務。

合唱指導

中 沢 敏 子

茨大、芸大委託声楽科卒。木下保氏等に師事。「のばら会」を主宰。文化センター「友の会」の音楽分野の常任企画担当者。各種演奏活動を始め、指揮者としても、水戸二高、カラコレス、うらら合唱団等を率い、全国的にその力量が知られている。水戸二高教師。

ピアノ

呉 恵 珠

東京芸術大学別科ピアノ卒。松原みどり、野呂愛子に師事。藤原歌劇団、二期会にてピアノ伴奏、FM、午後のリサイタル、レコーディング、コンサート、小劇場、ジャンジャンにおけるオペラのピアノを担当。





ピアノ

後藤 明子

土浦二高、東京音大ピアノ科卒。杉山とみえ、志村安英両氏に師事。58年県新人演奏会、59年県民コンサート出演。コール・ブラウエヒンメルピアノを担当。土浦市在住。茨オペ4年目。



江幡 和子

水戸三高音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業。岡山直、藤島昌寿、中山靖子、ノーマンアンダーソン、平山聡子の各氏に師事。現在水戸三高音楽科常勤講師。オペラ2年目。



大谷 満恵

東京音楽大学ピアノ科卒。鈴木恭代氏に師事。現在音楽教室と自宅にて、ピアノを指導。茨城オペラは昨年の「夕鶴」に引き続き2回目。「修道女アンジェリカ」を担当。



打木 弘美

水戸第三高等学校普通科卒業。茨城大学教育学部音学科在学中。第9回の「魔笛」に合唱団員として参加。



事務局

益子 州出男

国立音大卒。古沢泉、小川雄二各氏に師事。83年水戸にてリサイタルを開く。茨城オペラは、前回「夕鶴」でデビュー。今回は、事務局員として裏方で活躍。現在白鷗短大講師。

稽古風景

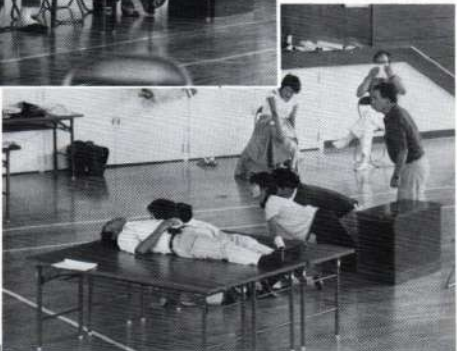


修道女アンジェリカ



演技指導

ジャンニ・スキッキ



修道女アンジェリカ

17世紀末ごろ、中部イタリアのある修道院の中庭。礼拝堂の中から、修道女たちの祈りの歌声がひびいてくる。遅れてきた修道女2名とアンジェリカもこれに加わる。

やがて礼拝が終り、修道女たちが中庭に出てくる。修道女長は2人の修道女とアンジェリカの遅刻を問責し、その他の不行儀なものにも罰をあたえる。修練長もこれに同調し、他のものには休息を与える。

修道女たちは中庭に散らばって、思い思いのことをしている。彼女たちは一年前に亡くなったピアンカ・ローザのことを思い出し、ジェノヴィエツファの提案でその墓に花を捧げる。だがアンジェリカだけは「死者に捧げる花より、生に咲く花こそ望ましい」と語り、彼女の言葉を受けて修道女たちは次々に自分の願いや望みを語り始める。彼女たちはアンジェリカにもそれを語るよう求めるが、彼女は「何もない——」と答えるだけ。修道女たちは彼女の身の上について噂し合う。

アンジェリカは裕福な貴族の娘で、7年前に伯母の公爵夫人によって、この修道院に入れられたことが明らかになる。そこへ看護修道女が駆けこんできて、修道女キアラが蜂に刺されて苦しんでいることを告げる。アンジェリカは薬草を摘んで薬の処方を説明してやる。

そこへこんどは托鉢修道女たちがもどってくる。彼女たちは、この中の誰かに面会人がきたらしいことを話してきかせる。まもなく修道院長が、その面会人は

アンジェリカへであることを告げると、もしや自分ではと期待した修道女たちは落胆し、墓地の方へと去る。

やがて修道院長が公爵夫人を導いてくる。アンジェリカは伯母である夫人に近づこうとする。しかし夫人は冷たい態度と口調で、アンジェリカの妹の婚儀が整ったことを語ると、亡き親の遺産分配のことで、書類に署名をと要求するのだった。愛する妹の幸福を喜んだアンジェリカは、相手はどんな人か、と訊ねるが、夫人は「不実な恋で傷ついた家名をたてなおしてくれる人」と答えるばかり。アンジェリカはかつて未婚のまま罪の子を産み、そのためにこの修道院に入らねばならなかったのだった。公爵夫人は今も彼女の過去の過ちを許してはいない。思わず「なんと冷酷なかた！」とアンジェリカは叫ぶのだった。

彼女は7年間のすべてを聖母マリアに捧げてきたが、たったひとつだけ忘れえぬことがあった。それは彼女が産んだ子供のことであり、その子の消息であった。そのことを必死に訊ねる彼女に、「あの子は病気のため死にました」と答える公爵夫人。アンジェリカは悲鳴とともにその場に倒れてしまう。

アンジェリカの署名した書類をもって公爵夫人は立ち去る。ひとり残った彼女は絶望から悲嘆にくれる。修道女たちが墓地からもどり彼女を助け起こす。入室の時刻を告げる合図がきこえ、修道女たちはそれぞれの部屋へともどっていく。

やがて、アンジェリカがひとり中庭へ出てくる。彼女は薬草から毒薬を調合する。それを飲み、愛する我が子のもとへ行こうとするのだった。しかし自殺という罪の呵責が彼女を捉える。必死に祈るアンジェリカの耳に、やがて天使たちの歌声がきこえてくる。その声の高まりとともに礼拝堂が光り輝き、奇蹟が起こる。彼女の目には一人の子供の姿がみえ、歓喜につつまれながら、アンジェリカは静かに息をひきとる。

ジャンニ・スキッキ

フィレンツェ。金持ちの老人ブオーゾ邸の寝室。いましがた息をひきとったばかりのブオーゾの亡骸が寝台に横たえられ、親類たちがそれを取り囲んでいる。

親類一同は嘆き悲しんでいるようにみえるが、本心は莫大な遺産のことしか頭にない。ブオーゾの義弟ベットの話によれば、町の噂に、故人の遺産はすべてある修道院へ寄贈されるという——。さあ、人びとはくやみどころではない。そんな遺書が残されていたのでは大変と、部屋中を大騒ぎで探しまわる。

青年リヌッチオがようやくその遺書を探しあて、それを開封し中身を読む前に、ラウレッタとの結婚の承諾を求めるが誰も彼の言葉など意にとめるものはいない。一同は遺書の内容をむさぼるように読む。

遺書を読み終えた一同は絶望のあまり、その場に坐りこむ。噂は本当だったのだ。やがて冷静を取りもどした彼らは、なんとかかならぬものかと考えをめぐらすうち、リヌッチオが恋人ラウレッタの父、ジャンニ・スキッキの名をあげる。一同は口ぐちにあんな田舎者と、スキッキをののしっていると、そこへ当のスキッキと娘のラウレッタが登場する。

リヌッチオはスキッキに、なんとかいい方法はないものかと相談するが、悪態をつかれたスキッキは「こんな奴らの利益など知ったことか！」と取り合わない。しかし娘ラウレッタのリヌッチオを想う気持ちにほだされて、遺書を読んで考えをめぐらす。

やがてスキッキはある提案をする。彼は、自分でブオーゾになりすまし、公証人に改めて遺言を口述すると説明する。それにはブオーゾがまだ生きていることにしなくてはならないので、協力するよう求め、一同は喜んでこの計画に加担する。

さて、親類たちはまたまた遺産の分配について勝手な欲を主張する。スキッキは「もしこれがバレたら、この計画に加担したものは全員、右手首を切り落され、町から追放されることになる」と一同に釘をさし、おじけづかせる。

まもなく公証人がやってくる。スキッキはまず、さきの遺言の無効を宣言し、親類一同にそれぞれ望みのものを一通り与えてから、遺産のうちでもっとも価値のあるものを次々とあげ、それらを「わしの忠実な友人、ジャンニ・スキッキに与える」という。スキッキにいっぱいいわされたと知った一同は、口々に彼を罵倒するが、スキッキは素知らぬ顔で「さらば、フィレンツェ……」を歌い、また「手のない腕で別れの挨拶を……」などと一同を脅しながら、思い通りの遺言を終える。

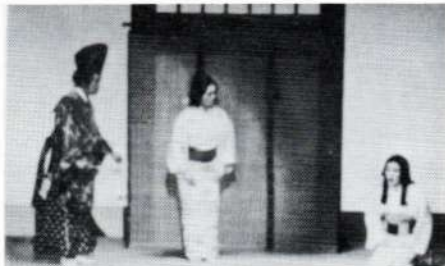
こうして望みのものを手に入れたスキッキは、親類連中を追い出すと舞台の中央へ進み出て、「皆様とあの偉大なダンテ様が、もしこの芝居をお気に召して下さったならば、きっとこのスキッキをお許し下さるでしょう」と高笑するうちに幕となる。



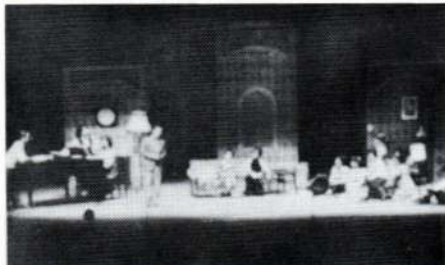
茨城オペラ公演記録



▲ <真間の手古奈>



▲ <炭焼姫>



▲ <小さな煙突そうじ屋さん>



▲ <夕鶴>

第1回公演

1975年10月24日(金) 日立市民会館

1975年10月25日(土) 水戸市民会館

「あまんじゃくとうりこ姫」

台本：若林一郎 作曲：林 光

「真間の手古奈」

台本：安東英男 作曲：服部正

指揮：白井英雄 演出：長沼広光

●常北公演

1976年2月22日(日) 常北高校体育館

「あまんじゃくとうりこ姫」「真間の手古奈」

●春季公演

1976年5月3日(日) 水戸市民会館

「オペラ・ハイライト」

ビゼー カルメン

ベルディ 椿 姫

プッチーニ 蝶々夫人

モーツァルト 魔笛

指揮：白井英雄 演出：長沼広光

第2回公演

1976年10月31日(日) 水戸市民会館

狂言オペレッタ「炭焼姫」

台本：宇野信夫 作曲：清水 脩

「ゼロ弾きのゴージュ」

原作：宮沢賢治 台本：清水 脩

作曲：清水 脩

指揮：白井英雄 演出：河内節子

●春季公演

1977年5月8日(日) 水戸市民会館

演奏会形式によるオペラハイライト

「フィガロの結婚」

作曲：モーツァルト

指揮：田口邦生 構成：竹中治利

第3回公演

1977年11月3日(木) 高萩市民体育館

「小さな煙突そうじ屋さん」

作曲：フリテン

指揮：田口邦生 演出：藤本高茂

1977年11月27日(日) 茨城県民文化センター

「小さな煙突そうじ屋さん」

台本：エリック・グロージャ

作曲：ベンジャミン・フリテン

指揮：田口邦生 演出：藤本高茂

第4回公演

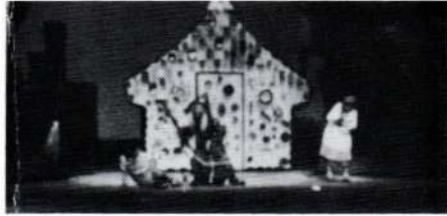
1978年10月29日(日) 茨城県民文化センター

「夕鶴」

原作：木下 順二

作曲：團 伊玖磨

指揮：汐澤安彦 演出：小田健也



▲ <ヘンゼルとグレーテル>



▲ <浮かれのひょう六機織唄>

第5回公演

1979年10月28日(日) 茨城県民文化センター
「ヘンゼルとグレーテル」

原作：グリム
作曲：E・フンパーディング
指揮：汐澤安彦 演出：小田健也



▲ <蝶々夫人>

第6回公演

1980年10月26日(日) 茨城県民文化センター
「浮かれひょう六機織唄」

台本：若林一郎
作曲：林光
演出：観世栄夫



▲ <赤い陣羽織>

第7回公演

1981年10月17日(土) 茨城県民文化センター
「蝶々夫人」

プッチーニ作
指揮：福森湘 演出：観世栄夫



▲ <魔笛>

第8回公演

1982年10月24日(日) 茨城県民文化センター
「赤い陣羽織」 大栗裕作曲

「あまんじゃくとうりこ姫」 林光作曲
指揮：福森湘 演出：観世栄夫

第9回公演

1983年10月23日(日) 茨城県民文化センター
「魔笛」

作曲：モーツァルト
指揮：茂木一衛 演出：松本重孝



▲ <夕鶴>

第10回公演

1984年11月8日(木) 勝田文化会館
「夕鶴」

台本：木下順二
作曲：團伊玖磨
指揮：汐澤安彦 演出：小田健也